

臨床実習	地域連携
------	------

《担当者名》 教授/長澤 敏行 nagasawa@ / 齋藤 隆史 t-saito@ / 豊下 祥史 toyosita@ / 會田 英紀 aita@
 / 伊藤 修一 shu@ / 飯田 貴俊 tiida@ / 疋田 一洋 hikita@ / 倉重 圭史 kura@
 准教授/川西 克弥 kawanisi@
 講師/村田 幸枝 y-murata@ / 仲西 康裕 nakanisi@ / 菅 悠希 kanyuuki@ / 田村 誠 mtamura@
 助教/仲西 和代 kdontics@ / 榊原 さや夏 sayanatu@ / 煙山 修平 shuhei-0912@
 / 松木 優子 matsuki@ / 蓑輪映里佳 minowa@
 任期制助手/成田 幸平 kohei-n@ /
 歯科クリニック地域支援歯科医療科/松原 国男 kunio@ / 木村 聡 satoshi-k@
 地域包括ケアセンター在宅歯科診療所/金本 路 michi_k@
 北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校
 専任教員/岡橋 智恵 okahashi@ / 大山 静江 ohyama@ / 千葉 利代 chiba@ / 山形 摩紗 masa4438@

【概要】

超高齢社会におけるチーム医療を理解し、実践できるように安心、安全な歯科医療を提供する能力を身につける。

【学修目標】

超高齢社会において安全な歯科医療を提供するために高齢者の特徴について説明する。
 地域医療を理解するために施設研修に参加する。
 地域医療を実践するために高齢者、有病者、障害者、在宅療養者とのコミュニケーションを実施する。
 要介護高齢者に対する口腔ケア・摂食嚥下を理解する。
 地域包括ケアにおける多職種連携のあり方を理解する。
 チーム医療を理解するために介護の概念について説明する。
 チーム医療を通して歯科医療スタッフとのコミュニケーションについて理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	高齢者介護実習	高齢者介護実習を通して、「生活モデル」を体験する。 (G-4)	長澤 敏行 齋藤 隆史 豊下 祥史 會田 英紀 伊藤 修一 飯田 貴俊 川西 克弥 村田 幸枝 松木 優子
5) 7	診療参加型臨床実習 ・歯科訪問診療(居宅・介護施設等)	居宅・介護施設等における口腔ケア・摂食嚥下指導を学ぶ。 医師、看護師、介護スタッフなど、多職種とのチームアプローチの流れを理解する。 高齢者、有病者、障害者、在宅療養者へのコミュニケーションを学ぶ。 高齢者、有病者、障害者、在宅療養者への歯科診療について学ぶ。 (G-4)	長澤 敏行 齋藤 隆史 豊下 祥史 伊藤 修一 飯田 貴俊 川西 克弥 村田 幸枝 松木 優子 煙山 修平 成田 幸平 松原 国男 木村 聡 金本 路
8) 9	多職種連携実習	要介護高齢者に対する歯科訪問診療を通して、本学歯学部附属歯科衛生士専門学校生徒と協働した多職種連携について理解する。 (F-1-1) 、(F-3-7) 、(G-4)	長澤 敏行 齋藤 隆史 會田 英紀 伊藤 修一 飯田 貴俊 川西 克弥 村田 幸枝

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			松木 優子 菅 悠希 煙山 修平 岡橋 智恵 大山 静江 千葉 利代 山形 摩紗
10) 12	歯科医療職間連携実習	北海道歯科技術専門学校歯科技工士および本学歯学部附属歯科衛生士専門学校生徒とコミュニケーションを介してCAD/CAM冠製作および装着を行い、歯科医療職間連携を通して医療チームにおける各役割の連携・責任体制を理解する。 F-3-4) 、G-4)	長澤 敏行 斎藤 隆史 會田 英紀 伊藤 修一 疋田 一洋 川西 克弥 仲西 康裕 仲西 和代 村田 幸枝 松木 優子 岡橋 智恵 大山 静江 千葉 利代 山形 摩紗
13	障がい者歯科実習	札幌歯科医師会の口腔医療センターでの実習を通して、障がいのある方の歯科診療での処置や対応について理解する。 G-4)	長澤 敏行 伊藤 修一 倉重 圭史 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 田村 誠 川西 克弥 村田 幸枝 松木 優子
14	周術期口腔機能管理実習	北海道大学病院口腔ケア連携センターでの実習を通して、全身麻酔や化学療法、放射線療法などを受ける予定の患者に対する口腔機能管理の見学を行い、周術期口腔機能管理の理解と専門的知識の拡充を図り、これに関わる多職種連携について学修する。 G-4)	長澤 敏行 伊藤 修一 川西 克弥 村田 幸枝 松木 優子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

【参考書】

「施設実習のガイドライン」：ガイダンス時に配布
各実習において別途配布する資料を使用する。

【備考】

施設研修や歯科訪問診療については、感染症や施設側の受け入れ態勢の状況によっては、座学やオンラインに変更の可能性がある。

履修資格として、 B型肝炎及び小児感染症（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）の抗体価が臨床実習委員長が定める基準以上である者、 季節型インフルエンザの予防ワクチンを大学が定める指定期間内に接種している者とし、ワクチン手帳に証明できるものを記載または添付する必要がある。なお、体質等健康上の理由により の基準を満たすためのワクチン及び に定めるワクチンを接種できない者あるいはワクチンを接種してもなお抗体価が基準に達しない者は、主治医発行の理由書等を実習開始前に臨床実習委員長に提出しなければならない。

【学修の準備】

「施設実習のガイドライン」を事前に読んで理解する。(30分)

各実習前後において、提示した資料および4年次までに使用した教科書や実習書の該当箇所を一読する(60分)。

各実習で提示した事前課題について、Google Formやレポート等を作成する。(60分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

DP 4. 多職種(保健、医療、福祉、介護)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

【実務経験】

長澤敏行、斎藤隆史、豊下祥史、會田英紀、伊藤修一、飯田貴俊、疋田一洋、仲西康裕、倉重圭史、仲西和代、川西克弥、村田幸枝、松木優子、菅悠希、榊原さや夏、菘輪映里佳、田村誠、煙山修平、成田幸平、松原国男、木村聡、金本路(歯科医師)、岡橋智恵、大山静江、千葉利代、山形摩紗(歯科衛生士)、各施設(介護福祉士、歯科技工士)

【実務経験を活かした教育内容】

大学病院、歯科クリニックでの実務経験と歯科技工士や歯科衛生士との歯科医療職との連携を活かすとともに、地域医療を担う施設スタッフ・介護福祉士などと多職種連携の理念と方法、その他の具体的な実践について教授する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している